

筑豊小児科医会会報

Vol. 183 2022.04



Contents

- ◇ 今月のトピックス（小児科 部長 岡松由記・小児外科 部長 田口匠平）
- ◇ 小児科関連勉強会（オンライン配信）のご案内
- ◇ 飯塚病院 月間診療のまとめ《2022年1月》
- ◇ 退任のお知らせ
- ◇ AI-CAP 通信
- ◇ Pediatrics note（小児科 診療部長 大矢崇志）

発行：飯塚病院小児センター（飯塚市芳雄町 3-83）
（代表）TEL：0948-22-3800

今月のトピックス（小児科 部長 岡松由記・小児外科 部長 田口匠平）

● 飯塚病院 小児科 部長 岡松由記

日ごとに春の訪れを感じるようになりました。

スーパーに並ぶ、春野菜や果物、ショーケースに並ぶ苺のスイーツにわくわくしますが、感染症対策に振り回され、極東の戦争のニュースに驚愕しどこか心重たい毎日です。

今年度1年間当院に出務された、上杉達先生、堀川洋平先生、新居見真吾先生、田中友規先生がそれぞれ次の出務先に異動されます。4月からは、清松光貴先生（2015年卒）、南里大樹先生（2018年卒）、山下哲矢先生（2018年卒）、小竹由先生（2019年卒）がお見えになり、小児科病棟とNICUに出務します。どうかよろしく願いいたします。

2021年度から、小児科一般外来への紹介予約のシステムを開始して1年になります。発達障害疑いも含まれますが、緊急受診ではない紹介患者さんに連絡をさせていただき受診日の予約をとらせて頂いております。受診日の偏りが改善し、待合室での待ち時間の短縮につながりました。同時に、当日の緊急受診のために電話連絡を頂いた際の外来での対応の流れがよりスムーズになるよう改善いたしました。ご紹介頂く際に、お困りごとや私どもの行き届かない点がありましたらどうか教えてください。

● 飯塚病院 小児外科 部長 田口匠平

平素よりご高配を頂きありがとうございます。

令和3年の当院小児外科の診療実績としては手術症例121例と前年の130例と比べ微減でした。コロナによる2回の手術制限や筑豊地区の少子化傾向があるにもかかわらず、それなりの手術症例が出来たのは、患者さんを紹介くださった地域の先生方のおかげであり、大変ありがとうございました。

当センターは、通常小児科診療だけでなく重症心身障害児/者の診療や小児の心理・発達、虐待など幅広く対応できる体制をとっております。当科に関しても、小児外科疾患以外にも排便や排尿のちょっとした訴えにも対応しており、お気軽にご紹介いただけたらと思います。

筑豊地区唯一の小児外科として、地域の先生方とも連携して筑豊の子供たちの健康に貢献したいと思えます。よろしく願いいたします。

小児科関連勉強会（オンライン配信）のご案内

■ 第335回 筑豊小児科医会勉強会

● 日 時：2022年4月21日（木）18:30～19:30

➡ 筑豊地域の小児医療について話し合おう

～時間外診療の現状を把握して今後の課題を考えよう～

飯塚病院 小児科 部長 岡松由記

田川市立病院 小児科 部長 馬場晴久先生

ひじい小児科クリニック 院長 肘井孝之先生

*ご視聴方法は案内状をご確認ください

飯塚病院 月間診療のまとめ 《2022年1月》

- 入院患者数 109人 ●外来患者数 1,146人 ●救命救急センター受診者数 352人
- 新生児センター入院患者数 18人 ●分娩件数 41件 ●手術件数 9件
- 主要疾患数（退院患者数：81人）

肺炎・気管支炎	14	痙攣及びてんかん	8	低出生体重児	5
急性胃腸炎	4	新生児呼吸障害・心血管障害	3	喘息	2
腸重積・腸閉塞	2	高ビリルビン血症及び黄疸	1	その他	42

●1月紹介件数

小児科：103件			小児外科：9件		
①	こどもクリニックもりた	9	①	青山医院	1
	宮嶋医院			有松病院	
③	ささきこどもクリニック	7		荒木小児科医院	
④	飯塚急患センター	4		いいづかこども診療所	
	田中クリニック			尾上小児科医院	
	平野医院			栗原小児科内科クリニック	
	弥永内科小児科医院			くわの内科・小児科医院 ほか2件	

退任のお知らせ

●小児外科 部長 田口匠平

2020年4月より2年間お世話になりました。

コロナによる外来や入院、手術の制限でバタバタした2年間でした。手術制限があったにもかかわらず、症例数は微減にとどまったことは、紹介くださった地域の先生方のおかげと感謝しております。小児外科医療だけでなく、栄養管理委員会として院内のNST活動も行ってききましたが、こちらのほうは思うような成果が上げられず悔いが残る結果でありました。

2022年4月から当科での診療体制はこれまでの2人体制から1人体制に代わることとなりますが、これまで通り患者さんを紹介いただけましたら幸いです。

2年間と短い間でしたが、どうもありがとうございました。



●小児科 診療部長 上杉 達

小児外科でもそうでしたがある疾患に対する治療目標は同じでもそこに至るまでのアプローチが病院によって様々なことが多く、飯塚病院でもまた新たなアプローチ方法を学ぶことができました。また地域柄、虐待関連の症例も多く虐待を疑うべき所見や虐待疑い症例への対応方法なども勉強になりました。今年で5年間の研修を終え小児科専門医試験を受験する予定です。近隣の先生方にご紹介いただいた症例で勉強させていただいたこと、飯塚病院の先生方にご指導いただいたことを総動員して試験に臨みたいと思います。1年間、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



● 小児外科 医長代理 鴨打 周

2020年7月から2022年3月まで飯塚病院小児外科で勤務させて頂きました。

当院では鼠径ヘルニアや臍ヘルニア、停留精巣、急性虫垂炎といった日常疾患を中心に多くの症例を経験することができました。次の勤務先でも、ここで学んだ知識や技術を活かし、子供達のために日々診療に取り組むと共に、自分自身の小児外科医としての成長のために邁進してまいります。

今まで本当にありがとうございました。



● 小児科 医長代理 堀川洋平

2020年10月から1年半、小児科スタッフの方々のみならず、多職種の方々に大変お世話になりました。薬物中毒や身体的虐待、医療的ネグレクト等、これまで勤務していた地域では見られなかった症例を経験し、子どもを取り巻く環境に関して改めて考えさせられました。小児科医としての視野を広げることができたと思います。

4月からは、自分が学生時代に小児科医を志望した原点である、地域のプライマリ診療に従事することとなりました。プライマリ診療といっても、単なる風邪医者ではないという自覚を持って臨むつもりです。

子どもたちの神性な心・健全な身体を守っていくための一助になればと思っています。ありがとうございました。



● 小児科 専攻医 田中友規

1年半病棟とNICUで研修をさせていただきました。先生方や看護師さんのご指導の元、日々の診療や手技を学ぶことができ非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。まだまだ至らない点や改善点がありますが、1年間久留米大学病院で研修して1年後戻ってくる際は成長した姿を見せることが出来るよう日々研磨していきます。1年半お世話になりました。

● 小児科 専攻医 新居見真吾

2021年4月から2022年3月まで、NICUと小児病棟で勤務させて頂きました。

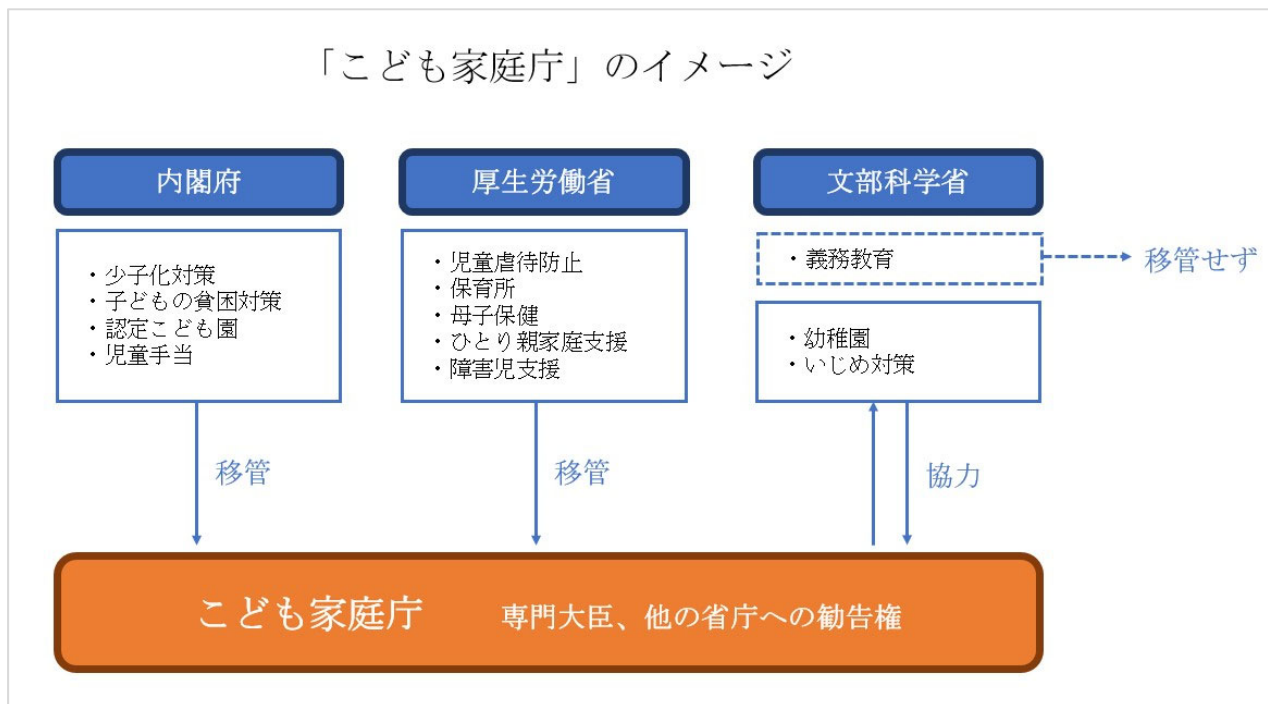
近隣の先生方、病棟スタッフをはじめ多くの方々のおかげで、貴重な経験を積むことができ、感謝しております。飯塚病院での経験を活かし、今後とも精進していきたいと思っております。

1年間と短い間でしたが、ありがとうございました。



こども政策の推進 ～こどもまんなか社会を目指すこども家庭庁の創設～

政府は2月25日、こども政策の司令塔となる「こども家庭庁」設置法案を閣議決定しました。児童虐待の相談対応件数は急増し、いじめや自殺、不登校なども深刻な問題となっています。こうした問題に切れ目なく対処し、こども関連の政策を一元的に所管する行政機構として、ちょうど1年後の2023年4月「こども家庭庁」が発足予定です。



＜こども家庭庁の基本姿勢＞

- ① こどもの視点、子育て当事者の視点
- ② 地方自治体との連携強化
- ③ NPOをはじめとする市民社会との積極的な対話・連携・協働

今、日本のこどもが置かれた状況は、命に関わる緊急事態（虐待、自殺、いじめ、不登校、こどもの貧困など）です。縦割り行政・多重行政を克服し、諸問題の解決やChildren First社会の実現を期待しています。

小児虐待防止委員会 委員長 田中 祥一郎

＜AI-CAP 事務局へのお問い合わせ＞ TEL : 0948-88-8220（直通） FAX : 0948-88-2806

Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

春は別れの季節です。私ごとではありますが、3月をもって大学病院での外来診療を終えました。一つの病院で20年近く診察をさせてもらい、様々な疾患を抱えた子とそこご家族が、人生のそれぞれのステージで悩み、苦しみ、喜ぶ姿を見せてもらったのは何事にも代え難い経験でした。小児科医として何よりの糧を頂いたと思っています。

そんな糧から一つ教訓を上げるなら『お母さんにはかなわない』です。自分の症状をうまく伝えられない小児科の診療において、お母さんが話してくれる子どもの様子はどんなモニターよりも正確で間違いがありません。私はそのお話に医学的な意味づけをして、検査や治療の計画を立てることを繰り返してきました。お話を中途半端に聞いて間違いを犯しそうになることはあっても、ちゃんと話を聞いていれば大きな間違いはありませんでした。首も座っていない小児科医の私は、たくさんのご家族のお世話になり、立派なおっさん・・・じゃなくて丈夫な小児科医に育ててもらいました。

以前、脳性まひで手足を硬くつぱってしまう子がいました。些細なことをきっかけに不機嫌になって泣き、彼の手足はいつそう強くつぱりました。つぱる手足が痛くて彼はさらに泣き続けます。私たちはさまざまな薬を使い、つぱりを和らげようと努めましたが、うまくいきません。

そんな日々が続く中で付き添いをしていたお母さんが、抱っこをすると不機嫌もつぱりも良くなることを教えてくれました。私たちはお母さんが落ち着いて抱っこができるように環境を整え、様子を見ました。抱っこを続けることで彼の機嫌は落ち着き、泣くことが減り、つぱることも減ったので、次第に穏やかに過ごせるようになりました。

“Above all, Do No Harm.”何よりも、害を与えてはならないとは医聖ヒポクラテスの言葉（諸説あり）ですが、その子にとって何が必要なのか、お母さんにいつも教わっています。さて、今日もお母さんの話を聴こうかな。

最新の情報は 飯塚病院ホームページよりご覧ください。

また、小児科・小児外科の詳しいご紹介や診療実績は「診療科のご紹介」をご覧ください。

外来担当表



小児科のご紹介



小児外科のご紹介

